

☆ **André Danjon 博士の逝去** フランスの、というよりも世界の指導的天文学者の一人であった、IAUの前総裁(1955—58)ダンジョン氏が1967年4月21日永眠された。

氏はストラスブル天文台長(1930—45)を経て、パリ天文台長(1945—61)となるや、鋭意その拡張に尽力し、ムードン天体物理天文台、ナンセイ天体電波観測所の建設に精力的な活動を示し、特にオート・プロバンスの近代的天文台は氏自身が1923年以來構想を樹て、土地選定に当たって来たもので、自らの手でこれを完成させたのである。

この間天文学の各分野、特に基礎天文学の発展に大きな功績を残した。多種の測光器、干渉計の開発、氏の名を冠するアストロラーベの発明等はその一つの表われであり、また暦表時制定に当たって氏の果たした指導的役割もまた銘記されるべきものであろう。

☆ **Frank John Kerr 氏の来日** オーストラリアのカー氏は、日豪交換教授として来日し、東京大学理学部天文学教室で6月14日から6月23日まで、大学院の集中講義を行った。その後東京天文台、京都大学、岡山天体物理観測所、名古屋大学空電研究所、東北大学等を訪れて7月8日に離日した。

彼は1918年メルボルンに生れ、メルボルン大学卒業後ハーバード大学に進み、以後シドニー(CSIRO)で銀河系の中性水素線(21cm)の観測を行った。とくに南天の観測とオランダの観測をあわせて、銀河系全体の水素ガスの分布を調べたことで有名である。またパークスの64m電波望遠鏡で、銀河中心方向の詳しい観測を行ったが、1966年にアメリカのメリーランド大学に客員教授として招かれ、グリーンバンクの91m電波望遠鏡による水素線の観測に寄与している。離日後は、1年半位アメリカに滞在してシドニーに帰国する予定である。

☆ **Walter R. Steiger 氏の帰国** 昨年9月から東京天文台に滞在中であったハワイ大学教授スタイガー氏は、6月23日帰国した。

スタイガー氏は、1年間の休暇(アメリカの大学教授は7年ごとに1年間の有給休暇がある)を利用して、フルブライト交換教授として来日したのであるが、滞日中は東京天文台測光部で、大気光のロケット観測などの共同研究を行うとともに、余暇には家族とともに日本各地を旅行して大いに日本生活を楽しんでいた。同氏のハワイにおける仕事等は、先月号所載の同氏の記事の中でふれてあるので省略する。

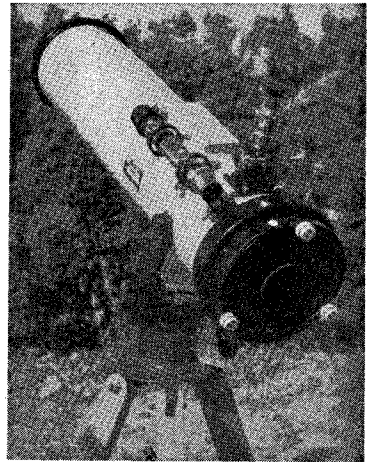
☆ **新彗星の発見** 新彗星 Mitchel-Jones-Gerber (1967 f) オーストラリアの H. E. Mitchel (6月29日9h 15m 世界時) と M. Jones (7月1日)、およびアルゼンチンの Gerer によって独立に発見された。初期の観測をいくつか次にかかげる。

1967年	世界時	赤経(1950.0)	赤緯	等級
7月	1.354日	8h 45.0m	+14° 00'	5
	3.386	9 01.2	10 05	5
	5.402	9 17.6	6 30	4

Woomera (オーストラリア)にあるスミソニアン天体物理観測所の観測ステーションでは、7月3日に長さ7度の分裂した尾を、また4日に4度、5日に6度の普通の尾を撮影した。



カンコー天体反射望遠鏡



二十
糎
C
G
式
焦
点
距
離
二
段
切
換
天
体
反
射
望
遠
鏡

- ★ 天体望遠鏡完成品各種
- ★ 高級自作用部品
- ★ 拋物面鏡、平面鏡、軸外し拋物面鏡
- ★ アルミニウム鍍金
- ★ 電源不要観光望遠鏡(カタログ要 30 円切手)

関西光学研究所

京都市東山区山科竹鼻 TEL 京都 580057

昭和42年7月20日

印刷発行

定価 100円

編集兼発行人 東京都三鷹市東京天文台内

印刷所 東京都港区西新橋2丁目22番6号

発行所 東京都三鷹市東京天文台内

電話武蔵野 45局 (0422-45) 1959

広瀬 秀雄

東京学術印刷株式会社

社団法人 日本天文学会

振替口座東京 13595